

平成15年度  
近世史料館春季展

# 尊經閣叢刊 影印本展

期間：平成15年4月1日（火）～5月31日（土）  
場所：金沢市立玉川図書館 近世史料館 展示室



週刊朝日百科「日本の国宝」96

金沢市立玉川図書館近世史料館

## 「尊経閣叢刊」と展示について

前田家 16 代利為は、大正 12 年（1923）の関東大震災によって多数の文物が失われるのを目の当たりにして、前田家々蔵の古文書・書籍の複製を作り、万一の亡佚に備えることを計画した。これらの史料群の保存、複製事業にあたる組織として公益法人育徳会財団（今日の財団法人前田育徳会）を大正 15 年（1926）2 月に設立した。

このような中で『尊経閣叢刊』と名付けられた史料の複製刊行事業が始まり、大正 15 年 6 月第一巻目となる「古語拾遺」の刊行がなされた。事業は、戦中も続行されたが、昭和 27 年（1952）第六十四巻目となる「建治三年記」をもって事業は中断した。その後、事業は「太平記」影印本の作成・刊行事業として昭和 48 年（1973）に復活し、現在の「尊経閣文庫善本影印集成」に引き継がれている。複製本ではあるが、国宝・重要文化財の宝庫とも言える「尊経閣文庫」所蔵史料の一端を本展示から見ていただきたい。

## 展示史料目録・解説

- 1 古語拾遺（亮順本、称名寺旧蔵） 一卷 2103-66

大正 15 年（1926）6 月刊、齋部廣成の撰。齋部氏の伝承する上古の諸事を記したものの。この本は奥に「大銅二年二月十三日」（大同 2 年=807）の撰時を示す年紀をもち、元弘 4 年（1334）3 月金沢称名寺において写されたものであることが、その奥書によって知られる。

- 2 枕草子（附異本枕草子） 五冊 9143-15

昭和 2 年（1927）12 月刊、清少納言の撰。原本は二条為氏筆とも民部卿局筆とも伝えられるが、明らかでない。鎌倉中期を降らぬ頃の書写。

- 3 土佐日記（藤原定家筆） 一冊 9153-8

昭和 3 年（1928）7 月刊、紀貫之の撰。奥書によれば、文禄 2 年（1593）5 月藤原定家が紀貫之自筆の本を得て写したもの。末尾 2 葉は貫之の筆跡を臨摸して示してある。

4 古今集（伝藤原清輔筆、附釈文） 二冊

91113-6

昭和3年（1928）12月刊。清輔本と称せられる系統に属し、奥書より藤原清輔の自筆と伝えられる。書写の事情は、撰者の一人紀貫之自筆の本を藤原通宗が写し、それを保元2年（1157）5月清輔が書写し、更に陽明門院御本・新院御本と校合したことが奥書によって知られる。6ヶ所7葉の欠脱がある。

5 宝積経要品（足利尊氏・同直義・夢窓疎石合筆、紙背名家短冊）一帖 1835-20

昭和4年（1929）10月刊。足利直義の跋によれば、或人（直義とも、尊氏とも）が夢に「なむさかふつせむしむさり」（南無釋迦佛全身舎利）の十二字を得、それを一字づつ首に冠した和歌を募り、光明院・尊氏・直義・細川和氏・高師直・兼好・頓阿・浄辨・慶運らの短冊を得た。それらを継合せて一帖に装し、その背景に康永3年（1344）10月兄尊氏、僧夢窓疎石と共に大宝積経の要品を書写して高野山に納めたもの。

6 山水并野形図（仁和寺旧蔵） 一卷

6292-17

昭和5年（1930）4月刊。巻首に「増圓撰」とある。方位・築山・園池・泉石・草木・庭石等、作庭の法について、所々に挿図を掲げ、片仮名まじり文で記したもの。末尾に相伝の血脈を掲げ、文正元年（1466）7月信巖の跋がある。

7 新古今集（伝二条為親筆） 四冊

9114-10

昭和5年（1930）12月刊、20巻。筆者は二条為親と伝えられる。書風はほぼその頃、室町初期かと思われる。江戸時代の補筆がある。内容は切継の歌の一部を存し、撰者名の頭注を有すること等により、定家本を写した二条家本の系統に属すると見られる。

8 年中行事秘抄（中原師世本系） 一卷

3858-5

昭和6年（1931）5月刊。正月より12月に至る年中行事を記す。附注を加えるほか、種々の書入が存し、紙背には諸行事の勘例が記されている。奥に延応元年（1239）8月書写の奥書があるが、今本はそれを更に写したものらしい。

9 御成敗式目（鶴岡本） 一冊

32213-24

昭和6年（1931）8月刊、鎌倉幕府執権北条泰時ら制定。表紙の貼紙より「鶴岡相承院」の旧蔵であることが知られ、一般に鶴岡本と呼ばれている。巻首に泰時、時房以下連署の起請文、泰時の仮名消息、式目の事書、前書等を存する点、通行の諸本と体裁を異にする。また四ヵ条の式目追加法が挿記されている。

10 十五番歌合（藤原伊房筆） 一卷

91113-27

昭和7年（1932）12月刊、藤原公任の撰。古来の秀歌三十首を選び、これを十五番に合せ歌合の形にしたもの。平安朝の古筆としては現在十四首が知られ、内八首が前田家の収蔵に係る。ここには関戸家、藤田家、松方家に蔵せられる各一首を併せ複製する。

11 類聚国史（巻第百六十五・百七十一・百七十七・百七十九）四巻

2101-116

昭和9年（1934）9月刊、菅原道真の撰。日本紀以下の国史の記事を類聚したもの。いずれも平安末から鎌倉初期の書写とみられる。

12 赤穂義人録（室鳩巢撰、草稿本） 一冊

2105-17

昭和10年（1935）4月刊。赤穂浪士の報讐を義挙と断じ、その経緯を述し、四十六士及び関係者の小伝を附す。鳩巢が自ら塗抹・改竄・補正を加えている。元禄16年（1703）10月の自序がある。

13 楠木合戦注文（附博多日記） 一卷

21045-14

昭和11年（1936）4月刊。「正慶乱離志」と名付けられた卷子本で、外題に「楠木合戦注文正慶二年分」とあるが、これは一卷の前半に当り、鎌倉幕府が楠木正成の拠る千早城を攻めた際の攻撃軍諸将部署の交名・関東事書・湯浅薫交名・その他合戦の報告を含み、末に正慶2年閏（1333）2月の年紀がある。

14 節用集（黒本本） 一冊 0313-8

昭和12年（1937）10月刊。室町時代のいろは引国語辞書。室町中期の成立である。黒本植氏より寄贈された本で橋本進吉博士の黒本本と名付けられたもの。

15 古事記（中原祐範跋） 三冊 2103-44

昭和13年（1938）1月刊、太安萬侶撰。この本は上巻の末に大永2年（1522）5月書写校合のト部兼永の奥書を有するが、これはその写本であろう。書写は室町末期かと思われる。

16 方丈記（平仮名本、古本系広本） 一冊 9144-4

昭和13年（1938）8月刊、鴨長明の撰。この本は鎌倉末期から室町初期の書写に係り、大福光寺本について古いとみられる。

17 南都巡礼記（建久御巡礼記） 一冊 185-6

昭和15年（1940）9月刊。建久御巡礼記とも南都諸大寺縁起とも呼ばれる。建久2年（1191）12月后宮（八条女院ともいうが不明）が南都の諸寺を巡礼した顛末及び諸寺の縁起等を記したもの。

18 平家物語（熱田本、真字本） 十二冊 9134-19

昭和16年（1941）1月刊。巻1は後世の補写。巻2～12は古経律論（複製せず）の紙背に写されている。真字本（和歌は平仮名書き）で、表記は大体漢字の形式に準拠しているが破格が多く、特異な訓読、当字、異体字等が多い。もと熱田社の蔵本であったので熱田本と呼ばれる。

19 楠正成奥判文書 一紙

21045-15

延元元年（1336）3月、楠正成自筆証判。延元元年京都から足利尊氏軍を追い払った後、和泉国和田助康の軍功を証したものの。

20 豊太閤与高德公書翰（豊臣秀吉→前田利家） 一紙

21048-14

天正13年（1585）、豊臣秀吉が越中の佐々成政を攻めた時のものとされる書状。  
—読み—

や八くわしく可申候ち筆そめ候  
かゝぬいや八下候、ないない申あわせ候事そうそううちたち可申候、又此たびもその  
ほうさきたて候は、つゆのまたるへく候、そのほうをひたりのうでとしわかやき可申  
候かしく

四月八日

はんくわい

秀吉判

ちくせん殿

21 日本書紀（卷第十一、太政大臣能信手跡） 一卷

2103-46

奈良時代に完成したわが国最古の勅撰の歴史書。神代から持統天皇までの神治・伝説記録など編年体で記述してある。

22 光悦百人一首 一卷

7288-41

百人一首ともいう。百人の歌人の和歌一首づつを撰集したもの。藤原定家の撰ともいわれる。小倉百人一首が最もよく知られている。

1～18の解説については「尊経閣叢刊略解題」によった。

〔尊經閣叢刊の収載書目(刊行順)〕

- 1 古語拾遺(亮順本、称名寺旧蔵) 一卷
- 2 色葉字類抄(三卷本、中卷欠) 二冊
- 3 枕草子(附異本枕草子) 五冊
- 4 重広会史(宋版) 二十冊
- 5 土佐日記(藤原定家筆) 一冊
- 6 古今集(伝藤原清輔筆、附釈文) 二冊
- 7 桂川地蔵記 一冊
- 8 世説新語(宋版、「金沢文庫」印記) 五冊
- 9 宝積経要品(足利尊氏・同直義・夢窓疎石合筆、紙背名家短冊) 一帖
- 10 祭礼絵草紙(伝土佐光重筆) 一卷
- 11 山水并野形図(仁和寺旧蔵) 一卷
- 12 兼好自撰家集(草稿本) 一冊
- 13 拙稿千百(高麗崔瀟著、高麗版) 二冊
- 14 新古今集(伝二条為親筆) 四冊
- 15 年中行事秘抄(中原師世本系) 一卷
- 16 貞永式目(鶴岡本) 一冊
- 17 日本靈異記(卷下、仁和寺旧蔵) 一冊
- 18 仁和寺御室御物実録(天曆四年菅原文時等署判) 一卷
- 19 老子億(王道撰、明版) 二冊
- 20 十五番歌合(藤原伊房筆) 一卷
- 21 順渠先生文録(王道著、明版) 四冊

- 22 天狗草紙(園城寺卷) 一卷
- 23 広田社歌合(藤原俊成筆) 三卷
- 24 寝覚 三冊
- 25 中外抄(下巻) 一卷
- 26 一本種・自論記・徒然百首(前田光高撰) 四冊
- 27 類聚国史(卷第六十五・百七十一・百七十七・百七十九) 四卷
- 28 兩京新記(卷第二、佚存書、「金沢文庫」印記) 一卷
- 29 惠慶集(藤原定家等筆) 二冊
- 30 赤穂義人録(室鳩巢撰、草稿本) 一冊
- 31 三宝絵(醍醐寺有雅本影写) 三冊
- 32 道濟集 一冊
- 33 荏柄天神縁起(荏柄社旧蔵) 三卷
- 34 古文孝経(甘露寺親長筆) 一冊
- 35 豊明絵草子(白描画) 一卷
- 36 楠木合戦注文(附博多日記) 一卷
- 37 後撰集・拾遺集(浄弁本) 二冊
- 38 古周易経解略(奥村尚寛撰) 四冊
- 39 大和物語(為家本) 一冊
- 40 冥報記 一冊
- 41 二中歴(三条西家旧蔵) 十三冊
- 42 節用集(黒本本) 一冊

- 43 法性寺殿御集 一冊
- 44 古事記(中原祐範跋) 三冊
- 45 性靈集(「聖玉」印記) 一卷
- 46 春草堂集(大田錦城著) 十六冊
- 47 江談抄(称名寺旧蔵) 一卷
- 48 方丈記(平仮名本、古本系広本) 一冊
- 49 こけ衣(四巻本) 四冊
- 50 入木秘書(尊円親王撰) 一冊
- 51 温故知新書(大伴広公撰) 三冊
- 52 中務集(藤原定家書入本) 一冊
- 53 今鏡(巻第四・五、伝二条為明筆) 一冊
- 54 閑居友(伝冷泉為相筆) 二冊
- 55 南都巡礼記(建久御巡礼記) 一冊
- 56 平家物語(熱田本、真字本) 十二冊
- 57 斎宮女御集(小島切) 一冊
- 58 定頼集(藤原定家筆) 一冊
- 59 元輔集(伝藤原俊成筆) 一冊
- 60 入道右大臣集 一冊
- 61 玉燭宝典(佚存書、紙背文書) 十一卷
- 62 列子(張注、宋版、「金沢文庫」印記) 三冊
- 63 金剛童子法(「興福伝法」印記) 一卷
- 64 建治三年記(太田康有記、「金沢文庫」印記) 一卷